

# 決算説明会

## 2020年3月期 第3四半期

**ミネベアミツミ株式会社**

2020年2月5日

吉田です。

本日は、私より2020年3月期第3四半期の連結実績について説明し、その後、代表取締役 会長兼社長の貝沼より事業概況を含む本日のポイントをご説明します。

## 売上高は第3四半期として過去最高

(百万円)	2019年3月期	2020年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	2Q	3Q		
売上高	249,570	279,473	267,650	+7.2%	-4.2%
営業利益	31,124	19,372	23,058	-25.9% (-11.7%*)	+19.0%
税引前利益	30,333	19,381	23,005	-24.2%	+18.7%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	24,177	13,916	18,991	-21.5%	+36.5%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	57.92	33.52	45.77	-21.0%	+36.5%

為替レート	2019年3月期 3Q	2020年3月期 2Q	2020年3月期 3Q
US\$	113.43円	107.63円	108.79円
ユーロ	129.92円	120.44円	120.02円
タイバーツ	3.45円	3.50円	3.59円
人民元	16.35円	15.44円	15.37円

\*2019年3月期3Qの一過性収益約50億円を除いた場合

2020/2/5

2

MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference

2020年3月期第3四半期の連結業績は、売上高は、前年同期比で7.2%増、前四半期比で4.2%減の2,676億5,000万円と、第3四半期として過去最高となりました。

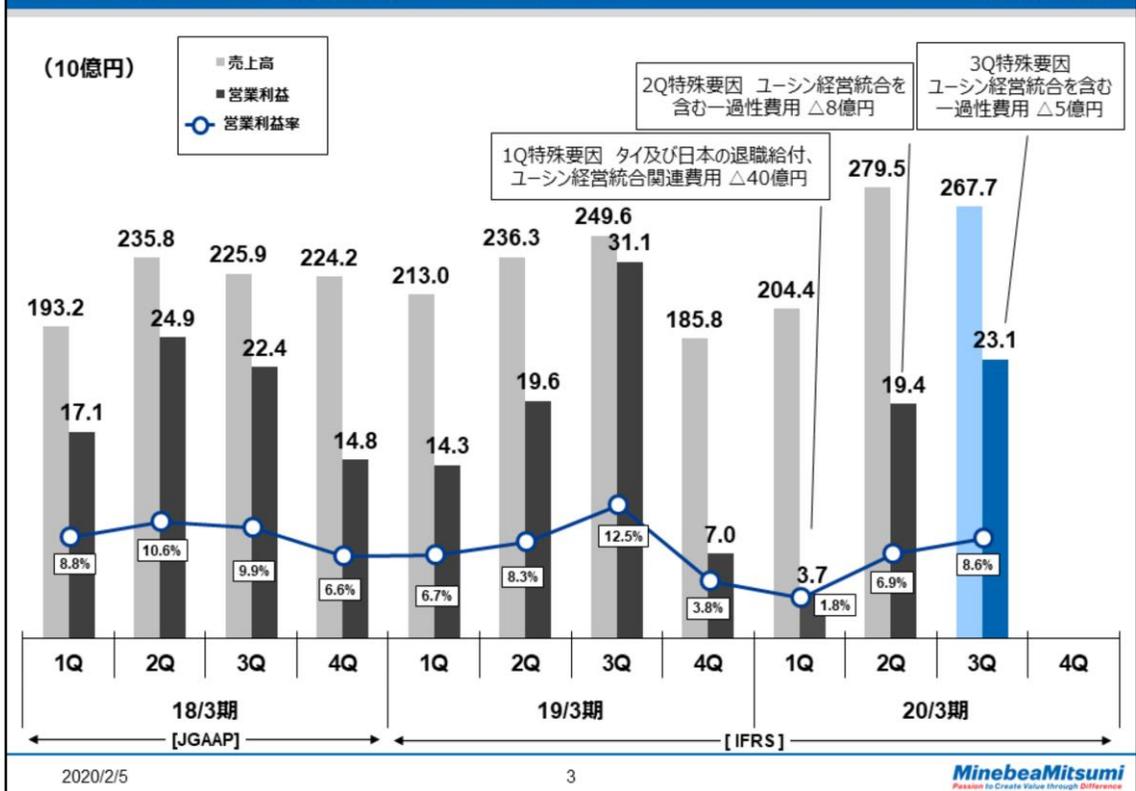
営業利益は前年同期比では25.9%減、前四半期比で19.0%増の230億5,800万円となりました。ただし、2019年3月期第3四半期には、定年延長等の人事制度改革による一過性の収益等プラスの特殊要因の約50億円が含まれており、これを戻しますと営業利益の前年同期比は11.7%減となります。

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比で21.5%減、前四半期比で36.5%増の189億9,100万円となりました。

為替の影響は、売上高で前四半期比プラス20億円、前年同期比マイナス100億円、営業利益で前四半期比プラス3億円、前年同期比マイナス35億円、との推計です。

# 売上高、営業利益、営業利益率

18/3期はJGAAP



売上高、営業利益、営業利益率の四半期ごとの推移です。

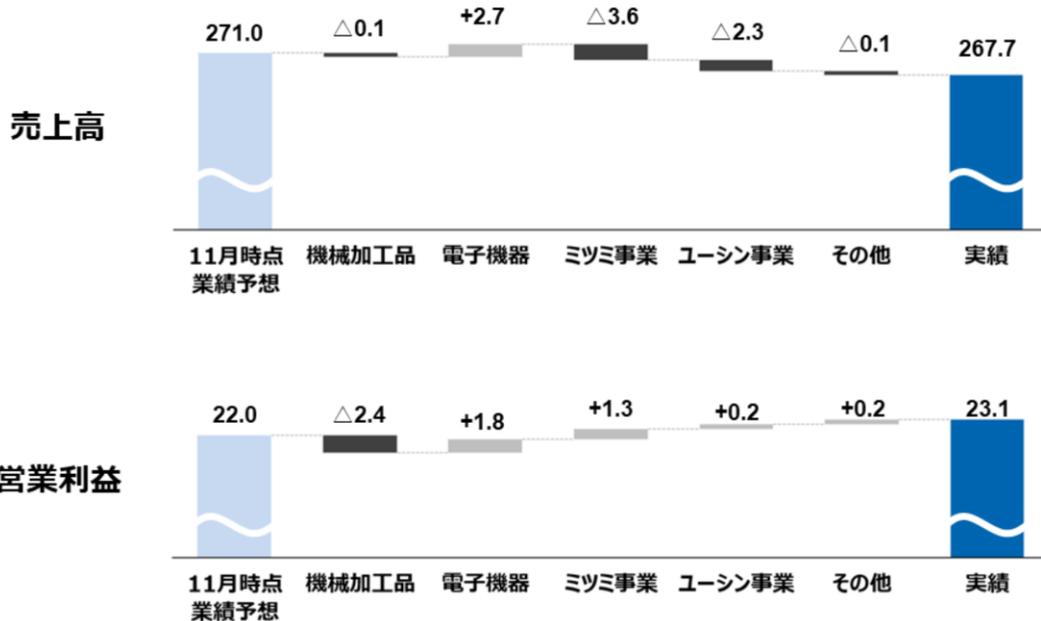
左側の棒グラフが売上高を、右側の棒グラフが営業利益を、折れ線グラフが営業利益率を示しています。

第3四半期の営業利益率は8.6%となりました。これは前年同期比では3.9ポイント低下、前四半期比では1.7ポイントの上昇となりました。ただし、第3四半期には特殊要因としてユーシン経営統合関連を含む一過性費用約5億円が含まれており、これを除いた場合の営業利益率は8.8%となります。

なお、これまでの発表数値のリファレンスのため、2018年3月期の実績値をJGAAPにて表示、説明しています。この後も同様となりますのでご注意ください。

## 3Q実績 11月時点業績予想からの差異

(10億円)



2020/2/5

4

MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference

これは、第3四半期の売上高、営業利益の実績につきまして、11月の決算発表時の業績予想からの差異についてセグメント別に示したものになります。

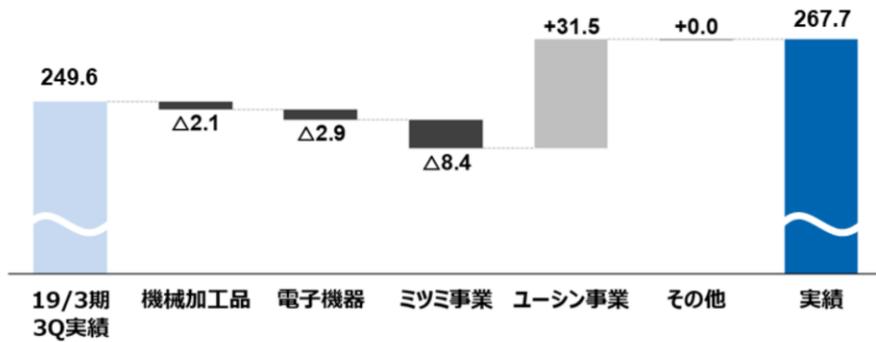
売上高においては、機械加工品事業セグメントは、おおむね想定通りでした。電子機器事業はエレクトロデバイスの堅調な推移により想定を上回りました。ミツミ事業においては、機構部品の出荷は想定を上回ったものの、光デバイスにおいて一部製品の出荷後ろ倒しの影響があったため、全体として想定を下回りました。ユーシン事業においては、中国を中心とした自動車市場減速の影響により稼働が大幅に低下し、想定を下回りました。

営業利益においては、機械加工品事業セグメントにおいて、ボールベアリングの外販数量は回復したものの製造原価の高い在庫から出荷したことにより想定を下回りました。電子機器事業においては売上の増加に伴い想定を上回りました。ミツミ事業においては、機構部品とアナログ半導体を中心に想定を上回りました。ユーシン事業は、自動車事業における収益改善を中心に想定を上回りました。

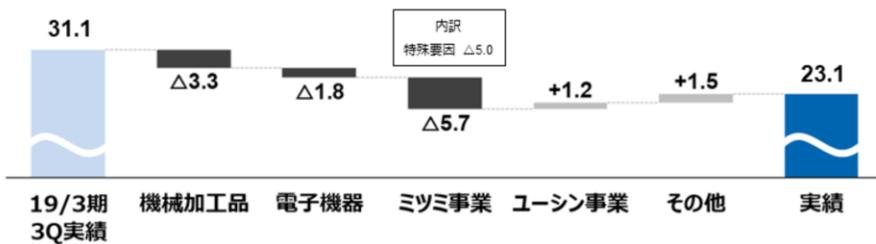
## 3Q実績 19/3期3Q実績との差異

(10億円)

売上高



営業利益



2020/2/5

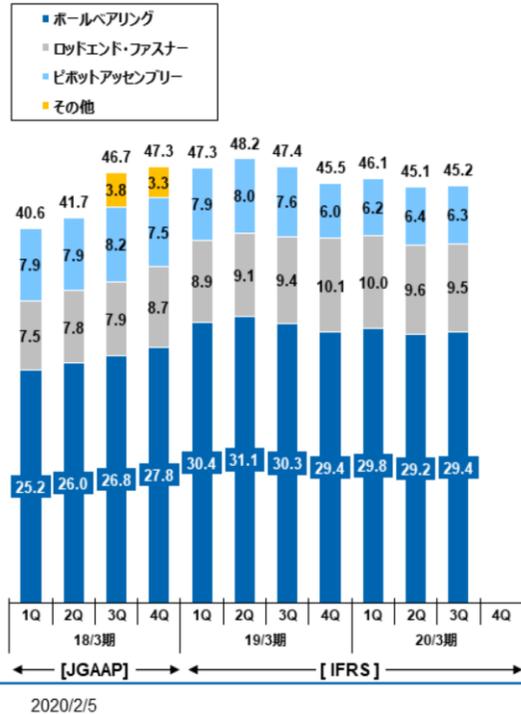
5

MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference

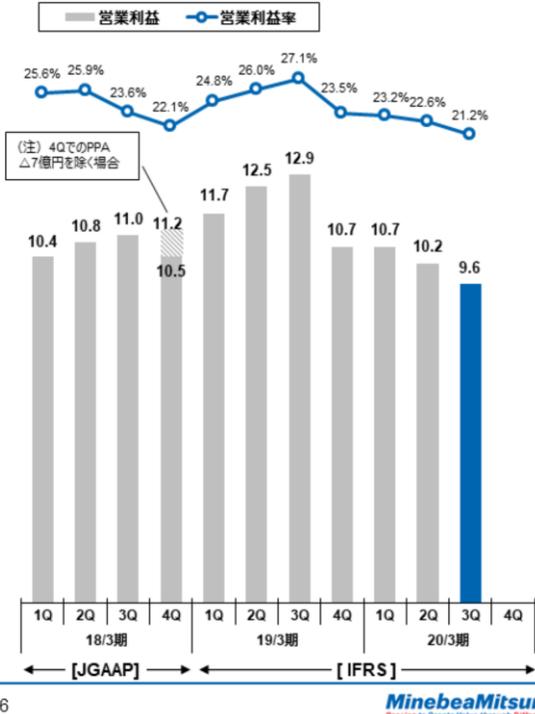
これは、第3四半期の売上高、営業利益の実績につきまして、2019年3月期第3四半期の実績からの差異についてセグメント別に示したのになります。

ご覧の通りの結果となっておりますが、ミツミ事業の営業利益については、2019年3月期第3四半期に定年延長等の人事制度改革による一過性の収益等プラスの特殊要因約50億円が含まれているため、実質的にはほぼ横ばいとなっております。

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



次に、各事業セグメントの状況について、まず機械加工品事業セグメントよりご説明します。左側のグラフが四半期ごとの売上高の推移を、右側のグラフは棒グラフが営業利益、折れ線グラフが営業利益率を表しています。

第3四半期の売上高は452億円、前四半期から0.2%の増加となりました。

ボールベアリングの売上高は294億円、前四半期比で1.0%の増加となりました。ボールベアリングの数量ですが、外販数量は月平均で2億200万個となりました。自動車向け需要が引き続き堅調に推移したことに加え、ファンモーター向け需要が前年同期を上回る水準まで回復したことや、エアコン向けの需要が伸びたことによります。

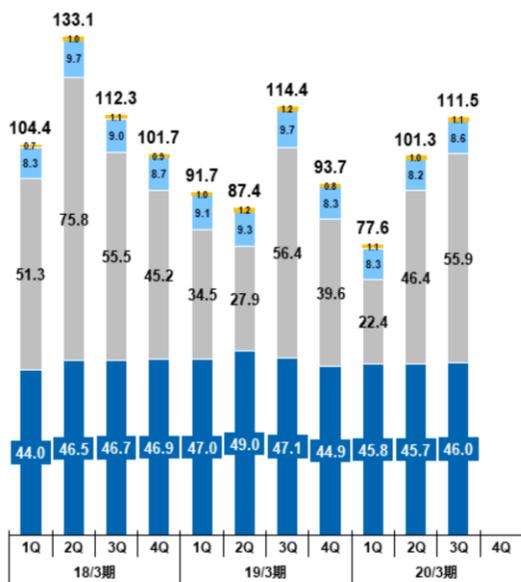
ロッドエンド・ファスナーの売上高は95億円となり、前四半期比で0.8%の減少でした。中・小型機を中心に、航空機向けのビジネスは堅調に推移しております。

ピボットアッセンブリーは63億円となり、前四半期比で1.6%の減少でした。これはHDD市場全体の弱さの影響を受けましたが、引き続き、当社シェアは80%超を維持しており、安定的に収益に貢献しています。

営業利益ですが、当四半期は96億円、営業利益率は21.2%となりました。営業利益は前四半期比6.1%の減少となり、営業利益率では1.4ポイントの低下となります。製品別では、ボールベアリングにおいて外販数量は好調だったものの、内販を含めた総販売数量が生産数量を超過した結果、製造原価の高い在庫から出荷したことにより前四半期比で減益となりました。

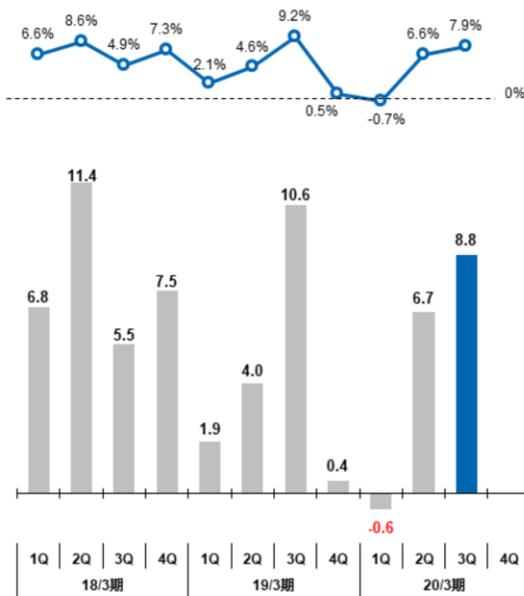
売上高 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ● 営業利益率



2020/2/5

7

MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference

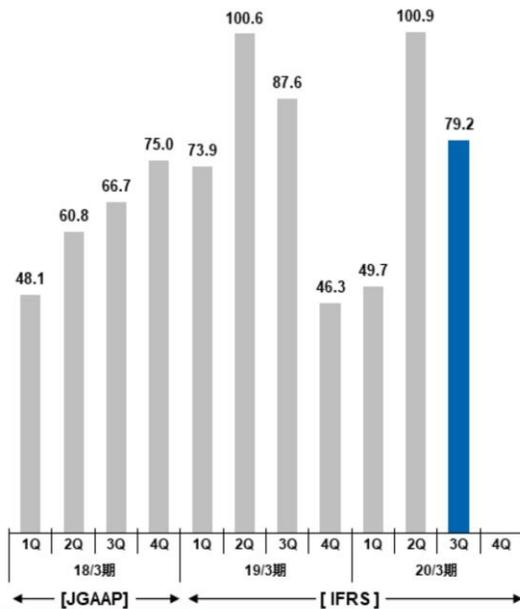
次に、電子機器事業セグメントについてご説明します。

売上高は1,115億円、前四半期比で10.1%増となりました。製品別では、モーターは前四半期並みの460億円となりました。エレクトロデバイスは、前四半期比20.5%増の559億となりました。これは第2四半期より好調だったLEDバックライトが第3四半期においても引き続き堅調であったことによるものです。

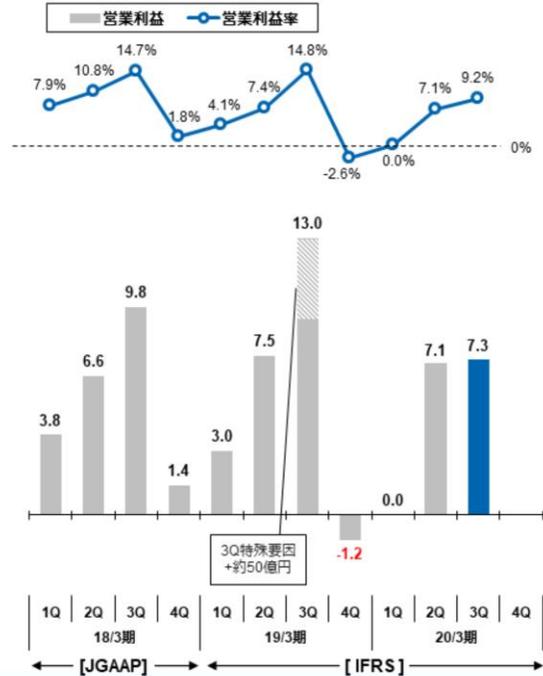
センシングデバイスの売上高は86億円となり、前四半期比4.8%増でした。これは一部顧客向けの売上が好調だったことによるものです。

営業利益は88億円、営業利益率は7.9%となりました。製品別では、エレクトロデバイスが大きくけん引しました。

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2020/2/5

8

MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference

次にミツミ事業セグメントについてご説明します。

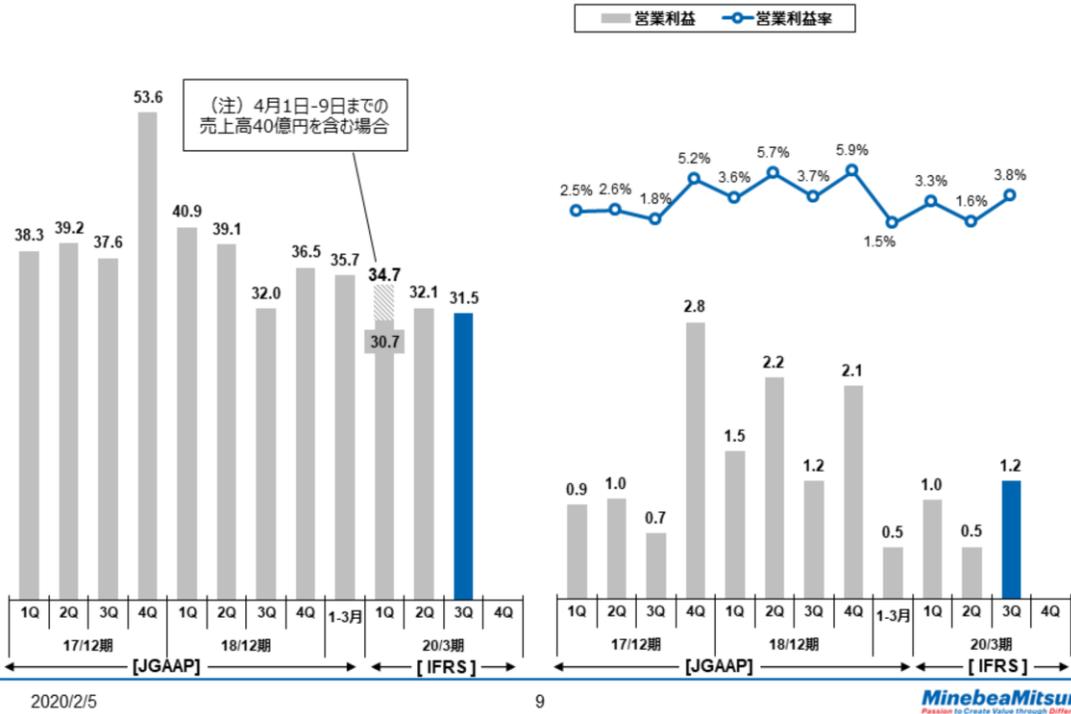
売上高は、792億円と前四半期比21.5%の減少でした。光デバイスおよびアナログ半導体、車載製品において増収となったものの、機構部品を中心にその他の製品は減収となりました。営業利益は73億円となり、営業利益率は9.2%と、光デバイスおよびアナログ半導体を中心に前四半期比で増益となりました。営業利益は前四半期比で2.4%増、営業利益率は2.1ポイントの上昇となりました。

# ユーシン事業セグメント

決算期変更に伴い17/12期4Qは4ヶ月決算  
19/3までは経営統合前の参考値でJGAAP

売上高 (10億円)

営業利益 (10億円)



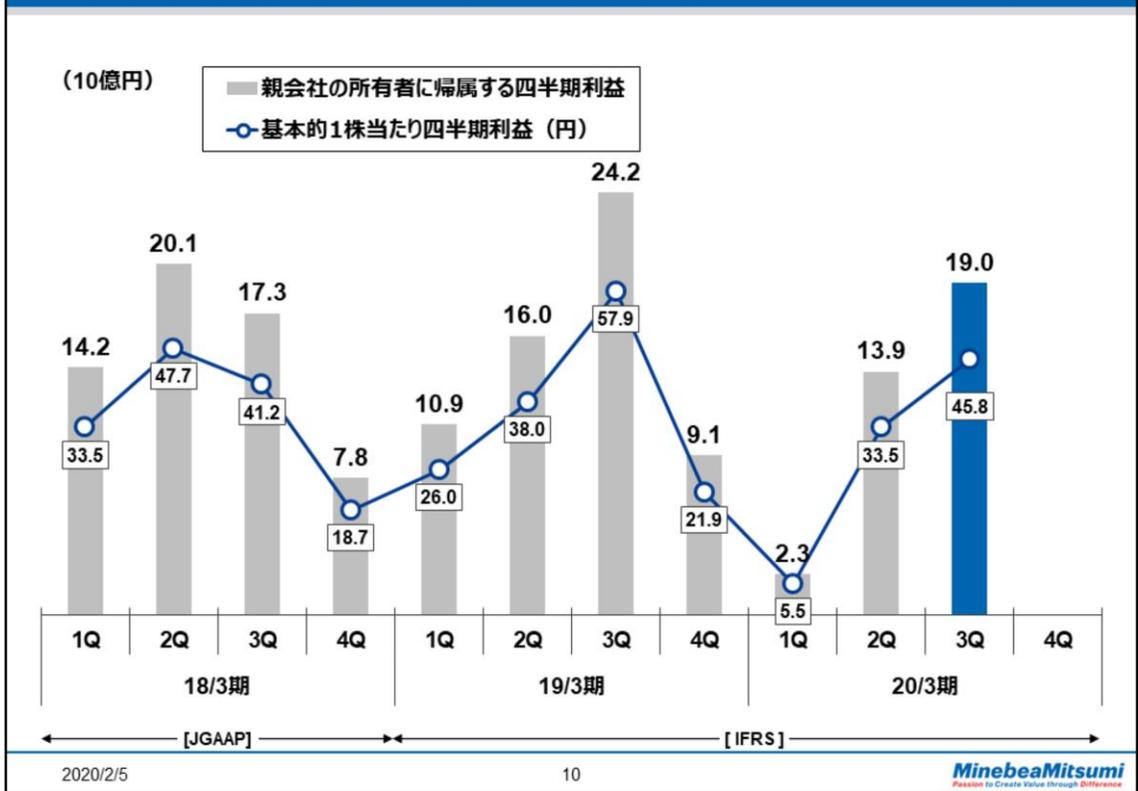
最後に、ユーシン事業セグメントについてご説明します。

売上高は315億円、前四半期比で1.8%の減少となりました。これは、中国・欧州等における自動車市場減速の影響により稼働が大幅に低下したことによります。なお、第三四半期には特殊要因としてユーシン経営統合関連費用および新製品立ち上げ費用等の一過性費用約3億円が含まれています。通期としては、一過性費用は約10億円を見込んでいます。

営業利益は前四半期比2.3倍の12億円、営業利益率は前四半期比2.2ポイント上昇の3.8%となりました。

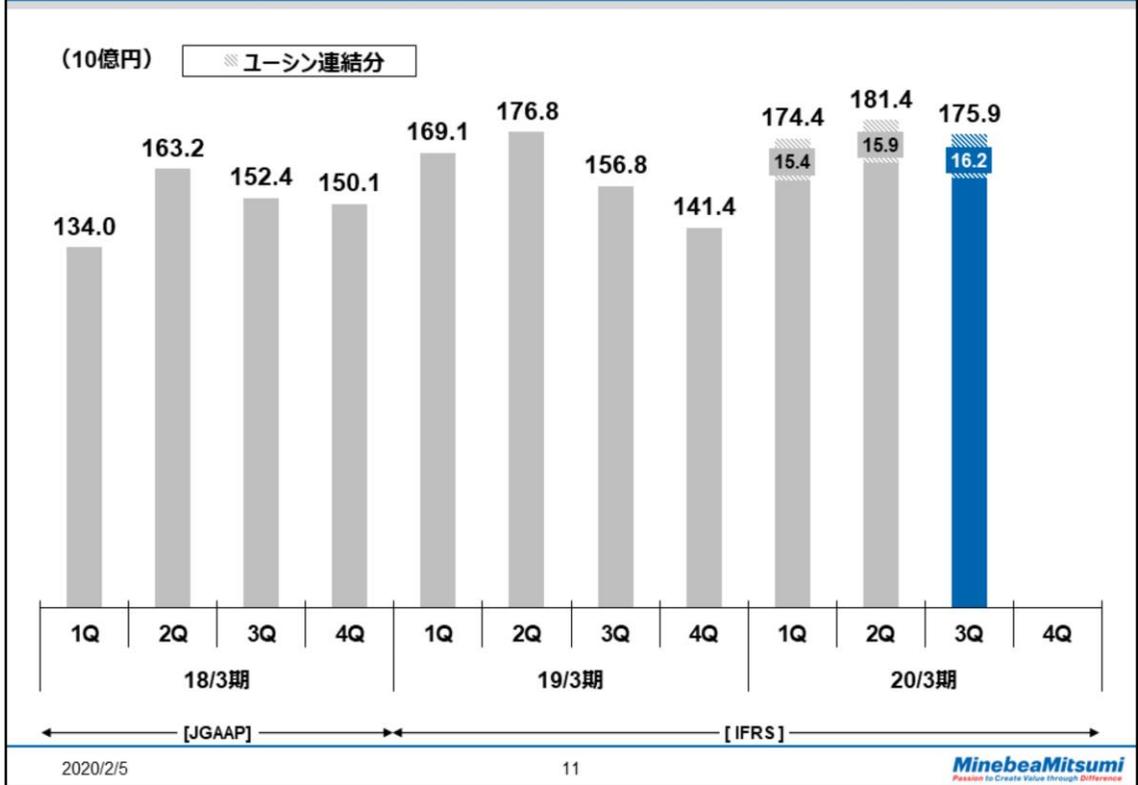
# 親会社の所有者に帰属する四半期利益

18/3期はJGAAP



このスライドは、親会社の所有者に帰属する四半期利益の推移を棒グラフで、1株当たり四半期利益の推移を折れ線グラフで表しています。

四半期利益は190億円、1株当たりでは45.8円となりました。

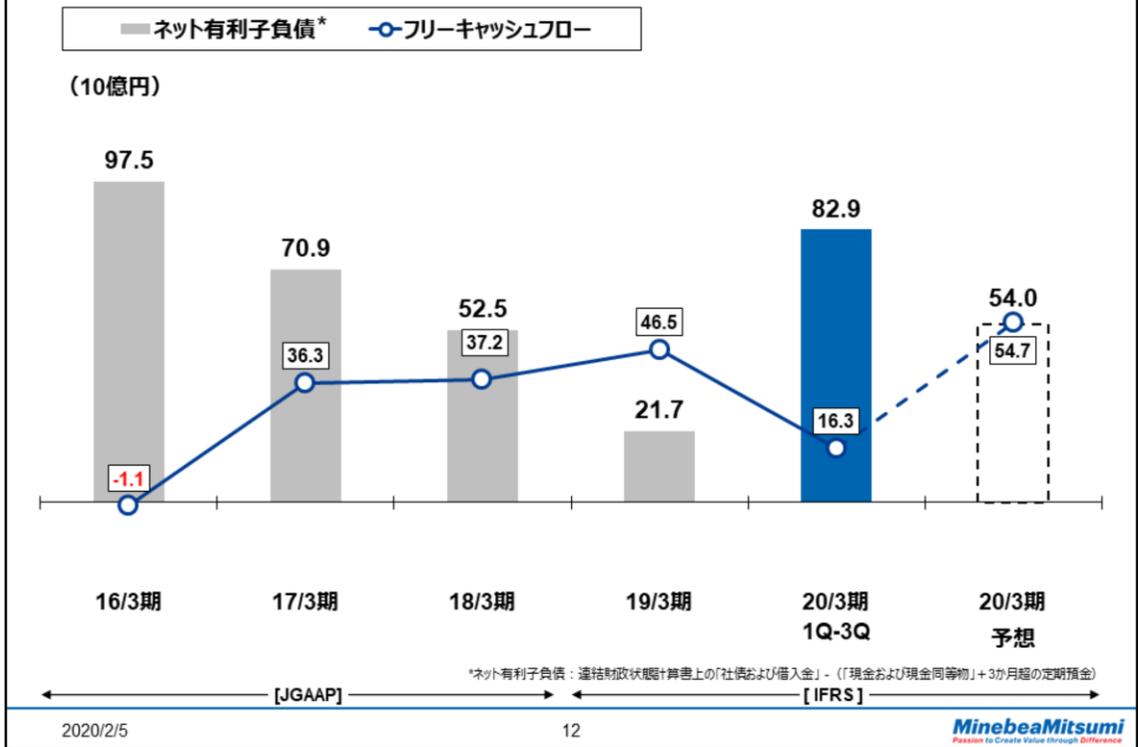


続きまして、棚卸資産の四半期ごとの推移です。

第3四半期末は1,759億円となり、3カ月前と比べると55億円の減少となりました。  
 なお、ユーシンの連結に伴い、同社の在庫(162億円)が含まれております。

# ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

18/3期以前はJGAAP



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移を棒グラフで、フリーキャッシュフローの金額を折れ線グラフで表しています。

第3四半期末におけるネット有利子負債は829億円となり、2019年3月末から612億円増加しました。

## 通期業績予想は据え置き\*

(百万円)	2019年3月期		2020年3月期		
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	884,723	483,898	516,102	1,000,000	+13.0%
営業利益	72,033	23,035	43,965	67,000	-7.0%
税引前利益	71,321	23,061	42,939	66,000	-7.5%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	60,142	16,213	35,787	52,000	-13.5%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	143.90	39.06	86.25	125.31	-12.9%

為替レート	2019年3月期 通期
US\$	110.67円
ユーロ	128.75円
タイバーツ	3.42円
人民元	16.52円

2020年3月期 4Q想定
108.00円
120.00円
3.50円
15.80円

\*ただし、新型コロナウイルスによる影響は含まれておりません。事態の進展を注視し、業績予想が大きく変わる場合はお知らせいたします。

これは、今期2020年3月期の業績予想をまとめたものです。

第3四半期の利益は想定を上回って推移したものの、新型コロナウイルスの影響や為替動向を含めた世界経済の不透明な状況は日を迫うごとに増しております。現時点でこれらによる業績への影響は予測不能であるため、通期業績予想は据え置きといたしました。事態の進展を注視し、業績予想が大きく変わる場合にはお知らせいたします。

為替レートは1ドル108円を想定しています。

# セグメント別業績予想

IFRSベース

(百万円)	2019年3月期	2020年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	884,723	483,898	516,102	1,000,000	+13.0%
機械加工品	188,324	91,187	91,813	183,000	-2.8%
電子機器	387,293	178,919	211,081	390,000	+0.7%
ミツミ事業	308,423	150,578	149,422	300,000	-2.7%
ユーシン事業	-	62,792	63,208	126,000	-
その他	683	422	578	1,000	+46.4%
営業利益	72,033	23,035	43,965	67,000	-7.0%
機械加工品	47,750	20,907	20,093	41,000	-14.1%
電子機器	16,922	6,076	15,424	21,500	+27.1%
ミツミ事業	22,282	7,149	13,351	20,500	-8.0%
ユーシン事業	-	1,542	2,158	3,700	-
その他	△386	△694	△806	△1,500	3.9倍
調整額	△14,535	△11,945	△6,255	△18,200	+25.2%

2020/2/5

14

MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference

こちらは、各事業セグメント別の予想です。

セグメント別の業績予想につきましては、足元の状況を勘案しセグメントの業績予想を若干調整しております。

以上で私からのご説明を終わります。

- **全体**：全体として米中貿易問題の影響を受けるも、**多様化したポートフォリオが収益を支える**。リスク分散にも寄与。**ただし、新型コロナウイルスの影響を注視。**
- **機械加工品**：ボールベアリング**外販数量は鮮明な回復傾向**。**3Q営業利益は製造原価の高い在庫からの出荷で一時的に悪化も、4Qから回復基調へ**。来期外販数量は**210百万個を超える水準**へ。
- **電子機器・ミツミ事業**：スマホ・ゲームは**予定通り推移**。
- **ユーシン事業**：中国を中心とする自動車市場の減速が大きく**通期では前回予想を下回る**。
- **今期の自社株買いは、昨年12月より開始**。
- **1株当たり純資産も過去最高**。（BPS=1,015.36円）

2020/2/5

15

貝沼です。私の方から、本日のポイントを説明します。

全体として米中貿易問題の影響を受けましたが、リスク分散ということで、私どもの多様化したポートフォリオがバランスよく収益を支えていることが、今回もよく再確認できたと思います。

ただし、今回の発表内容には新型コロナウイルスの影響は含まれておりません。当発表資料を作成している現段階で事態がかなり悪化していることはご案内のとおりです。工場は2月10日から操業となっておりますが、サプライチェーンでそれなりの影響を受けるのではないかと推測します。今回の規模とは全く異なりますが、2011年のタイの洪水ではサプライチェーンでかなりの打撃を受けた経験があります。昨今の最終製品で中国の部品が使用されていないものは考えられないと言っても過言ではない状況のため、何らかの影響はあるものと予想されます。ただし、3月からキャッチアップすることも視野に入れているため、状況がわかり次第ご案内をさせていただきます。

機械加工品のボールベアリングは、前回2Qでもご案内のとおり外販数量は回復傾向にあります。来期の外販戦略は既に策定しており、こちらの資料では月ベースで「2億1,000万個を超える水準」としてありますが、社内的にはもう少し高いところに目線があります。今回の1つのレッスンとして、やはり生産数量を上げて1個当たりのコストを下げるということに間違いはないということがありますので、来期においては、現状を鑑みてもう少しアグレッシブな価格政策も出しながら、数量を最大限確保していくことを考えています。

電子機器・ミツミ事業は、4Qも引き続き前回予想を上回る見込みですが、現在の中国の状況を注視していきたいと思っています。

ユーシンに関しては、自動車市場の減速が非常に大きく、想定より悪い結果となってしまうことは避けられないと予想しています。やるべきことは非常に明確に定めており、業績改善に向けて真摯に取り組んでおりますので、時期が変わってくれば必ずターンアラウンドに向かうと確信しています。

自社株買いにつきましては、昨年の12月より開始しています。

1株当たり純資産も過去最高となったことをご報告いたします。

## ボールベアリング外販数量の回復傾向はより鮮明に

### ボールベアリング事業

- 3Q以降、自動車、FAN、エアコン向けを中心に外販は前年同期比で成長。
- 内販は、ピボット向けで縮小傾向。
- 積極的な拡販で裾野を広げる。
- 生産数量の引き上げで収益改善へ。

#### 外販数量のYoY増減（月次平均）

	①3Q（実績）	②通期（見込み）
外販数量	+7百万個(+4%)	-2百万個(-1%)
自動車	+5百万個(+8%)	+4百万個(+6%)
FAN	+2百万個(+4%)	-8百万個(-15%)
エアコン	+4百万個(+45%)	+3百万個(+31%)

### ロッドエンド・ファスナー事業

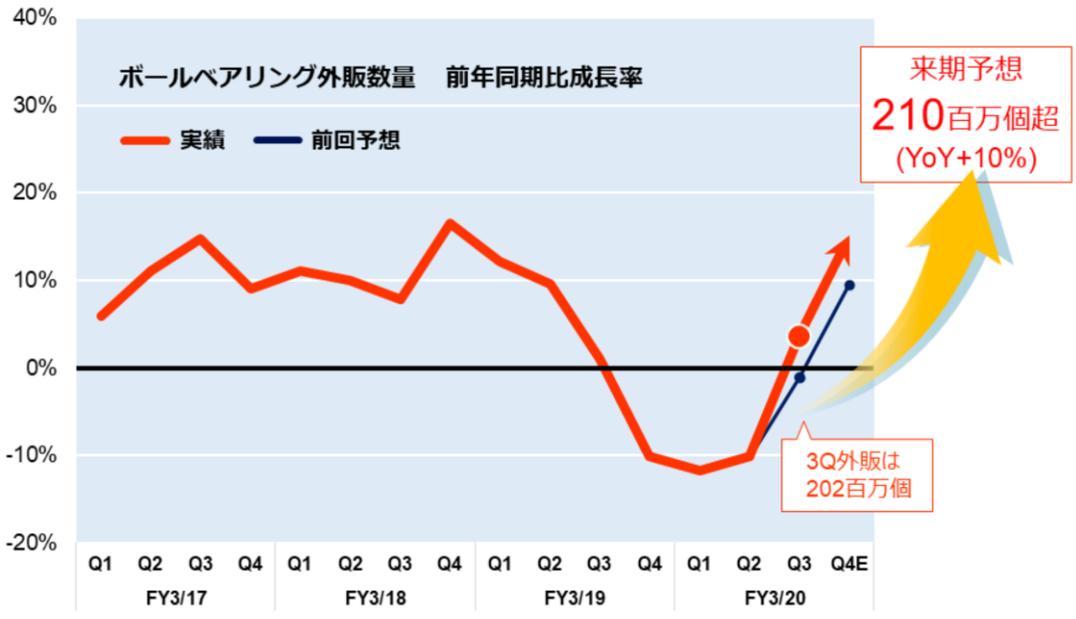
- 来期の737MAXによる影響は、他顧客向け、防衛向け、新規受注等でカバーを見込む。

ボールベアリング外販数量（百万個/月）



ベアリングの外販数量の回復傾向については、グラフのとおりです。ただし、先ほどご説明いたしましたように、来期は非常にアグレッシブな計画を立てています。必ずや収益の回復を図ってまいりたいと思います。

前回予想をさらに上回って回復



2020/2/5

17

こちらも同様です。来期の外販数量2億1,000万個超とありますが、かなり上積みをしていきたいと思えます。

エイブリック株式会社の概要

名称	エイブリック株式会社			
所在地	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目8番地			
代表者の役職・氏名	代表取締役社長兼CEO 石合 信正			
事業内容	アナログ半導体製品の開発・設計・製造・販売			
資本金	92億5,000万円			
設立年月日	2015年9月28日			
大株主及び持株比率	株式会社日本政策投資銀行	70%	セイコーインスツル株式会社	
			30%	
最近3年間の経営 成績及び財政状態 (百万円)		17/3期	18/3期	19/3期
	売上高	28,548	32,784	32,851
	営業利益	2,464	4,832	4,174
	純資産	18,426	21,203	23,410
	総資産	42,897	45,251	45,039

2020/2/5

18

前回の決算説明会の後に発表いたしました、エイブリック社の株式取得についてご報告いたします。

株式会社日本政策投資銀行様が70%、セイコーインスツル株式会社様が30%という持分で所有しておりましたエイブリック社を、当社が100%買収するという合意ができ、既に関係各国の競争当局に申請をいたしました。

## 2.6兆円アナログ半導体市場におけるプレゼンス強化

### 販売

#### 主力製品の強化と顧客基盤拡大

- 両社の販路を相互に活用し、車載向け、産業・住設機器向け、医療機器向け市場への拡販
- 車載用半導体のノウハウ（技術、生産、品質管理）の深化

### 生産

#### 高い技術とコスト競争力を兼ね備え、安定供給可能な生産体制の構築

- 前工程・後工程共に2工場化による相互ボーディング
- 多品種少量生産モデルでの高効率オペレーション
- 内製ポートフォリオ増強による製造力の強化

### 技術開発

#### 総合電子部品とアナログ半導体の技術シナジーによる新製品開発力の強化

- モーターやセンサー、無線通信といった当社技術基盤とのシナジーによる新製品創出
- エイブリックの電池レス技術の当社IoT製品への展開
- 補完関係にある両社の技術の融合で、更に高性能・高精度機能製品を開発

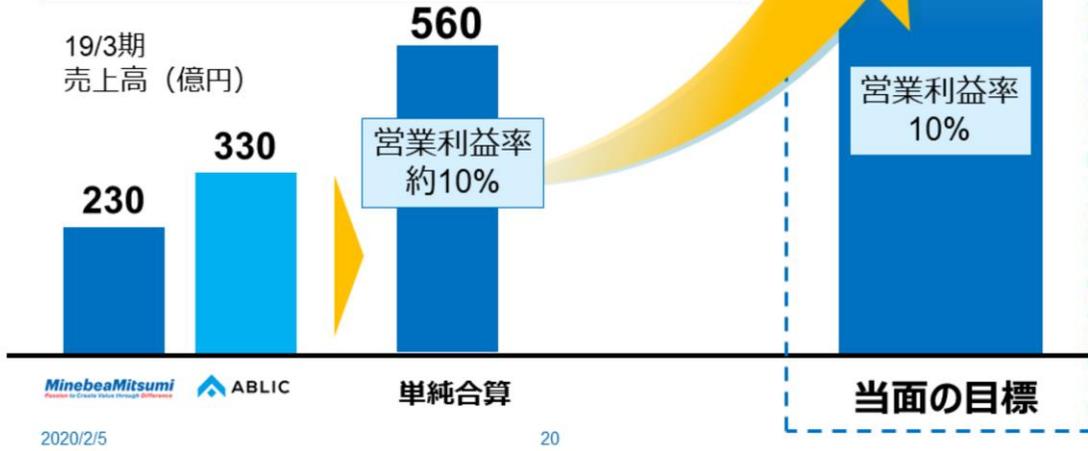
2020/2/5

19

経営統合によって考えられるシナジーは記載のとおりです。

- 1 両社の特徴ある半導体技術の強みを融合
- 2 ミネベアミツミの基盤技術の活用

差別化された新製品を次なる柱に  
売上**1,000**億円の土台は完成



当社の8本槍戦略の中に、アナログ半導体を含めています。昨年に発表しました10年計画では、アナログ半導体の売上高を1,000億円する目標をご案内いたしました。今回の経営統合が成功すると売上高560億円の会社ができることとなります。これから9年の間にはM&Aもあると思いますが、オーガニック成長だけでも1,000億円を十分達成できると考えます。アナログ半導体は売上高1,000億円の土台が完成したと思っており、着実に手続を進めてまいります。

セブ工場に新工場を建設し  
将来の旺盛な需要に対応する



Cebu Mitsumi



カメラアクチュエータ  
専用工場（既存）

**新工場（予定）**

床面積：15,000m<sup>2</sup>

2020/2/5

21

ご案内のとおり、スマホのカメラは多眼化が始まり、新しいテクノロジーも導入されていきます。このたび、将来の旺盛な需要に対応するという意味で、セブのカメラアクチュエータ工場の隣にある敷地を活用して、新工場を建設することといたしました。LEDバックライトの数量を見込めない中、カメラアクチュエータが減少の一部をオフセットしていくということで、この業界で確固たる地位を築くという方針に転換いたしました。

## 自社株買いの状況（2020年1月末までの実績）

- 取得株式総数： **304万株**（進捗率40.6%）
- 取得株式総額： **70億円**（進捗率46.8%）

### （ご参考）2019年5月8日 決議内容

取得株式総数：上限 **750万株**  
（発行済株式総数（自己株式を除く）の1.81%）  
取得株式総額：上限 **150億円**  
取得期間：2019年5月9日から2020年4月30日まで  
理 由：株主還元および資本効率の向上と経営環境に  
応じた機動的な資本政策を遂行するため

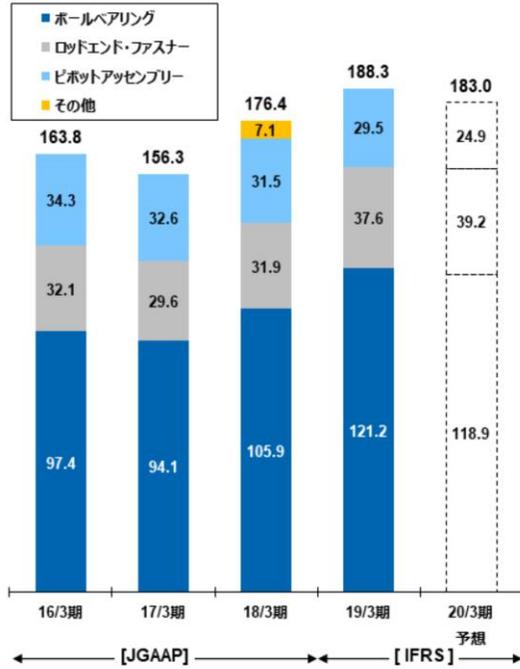
まだしばらく自社株買いは続くということです。  
簡単ですが、私の説明は以上です。



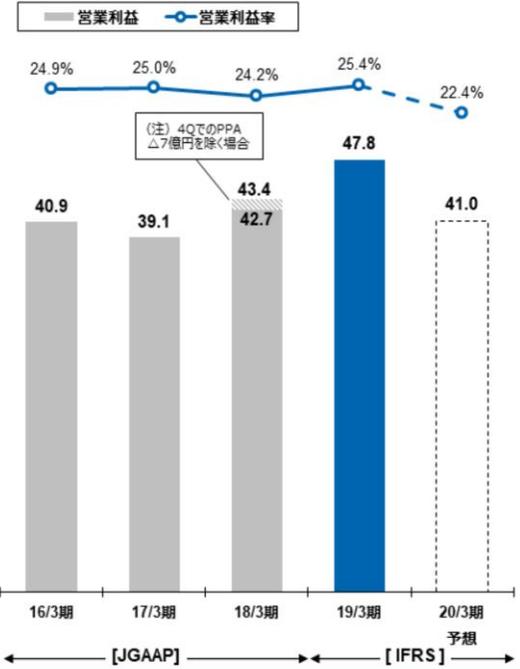
当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、または、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

# 参考資料

売上高 (10億円)



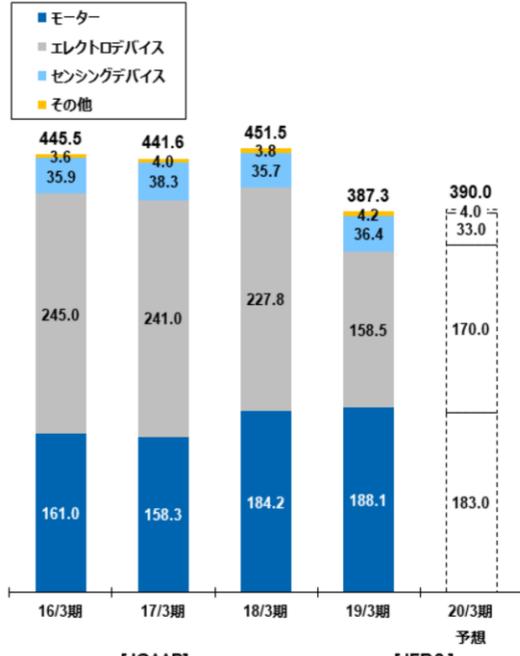
営業利益 (10億円)



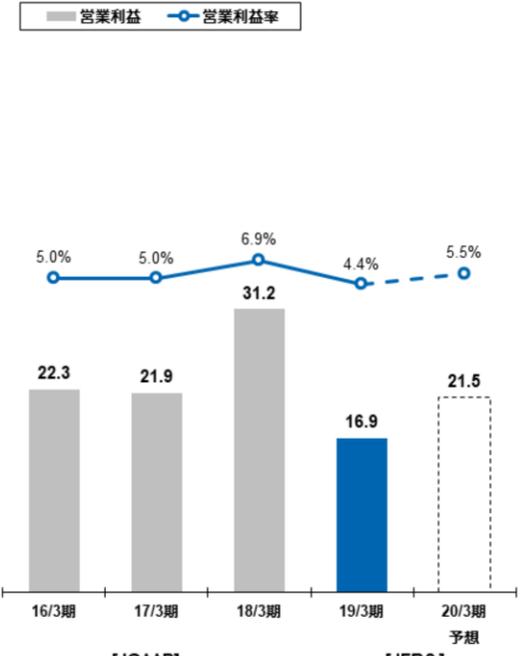
2020/2/5

25

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



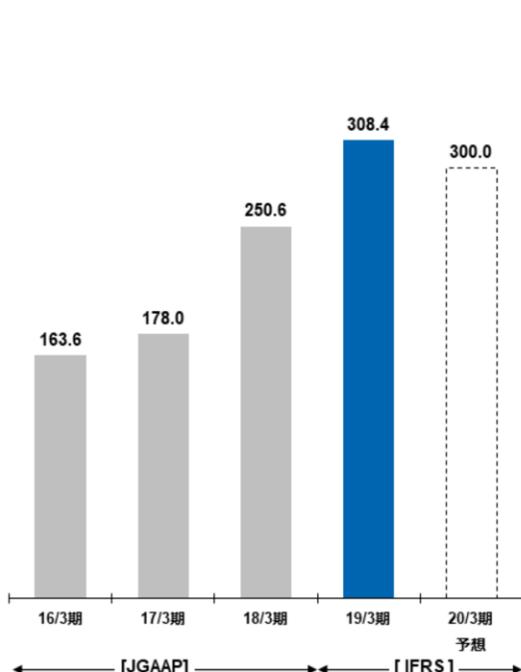
2020/2/5

26

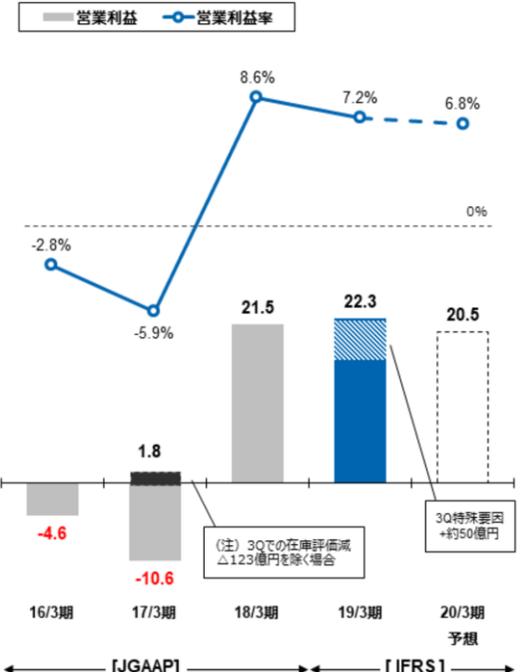
# ミツミ事業セグメント

売上高、営業利益ともに、17/3期3Qまでは、経営統合前。  
17/3期4Qは3ヶ月分の管理会計ベース。18/3期以前はJGAAP

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2020/2/5

27

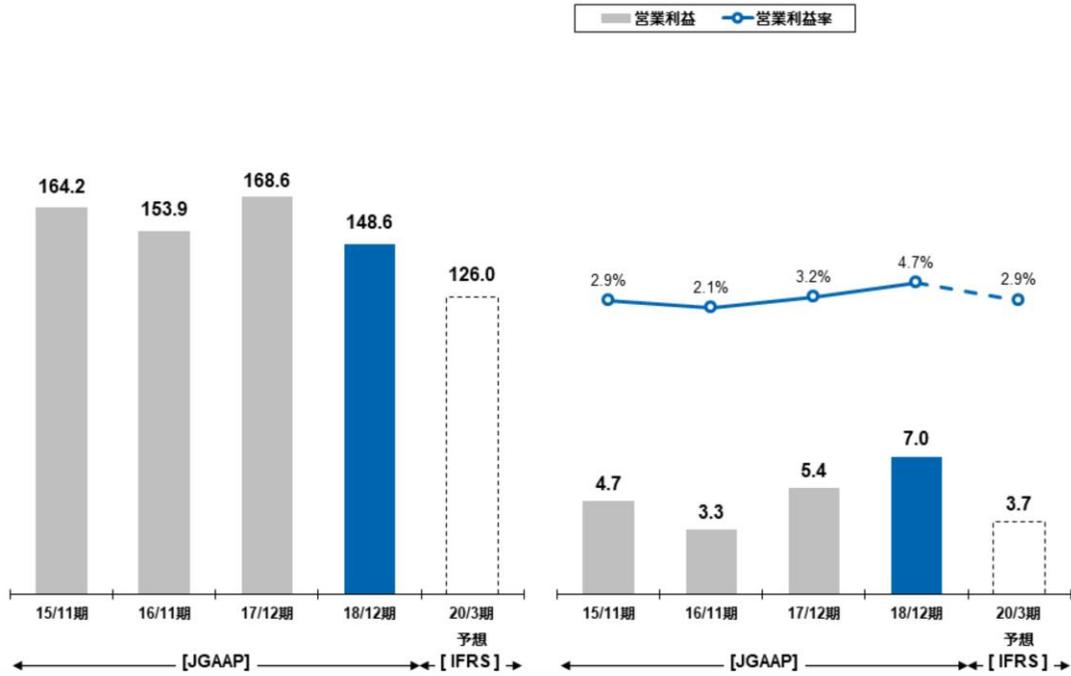
MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference

# ユーシン事業セグメント

決算期変更に伴い17/12期は13ヶ月決算  
 18/12期以前は経営統合前の参考値でJGAAP  
 20/3期は2019年1-3月の数値を含まず

売上高 (10億円)

営業利益 (10億円)



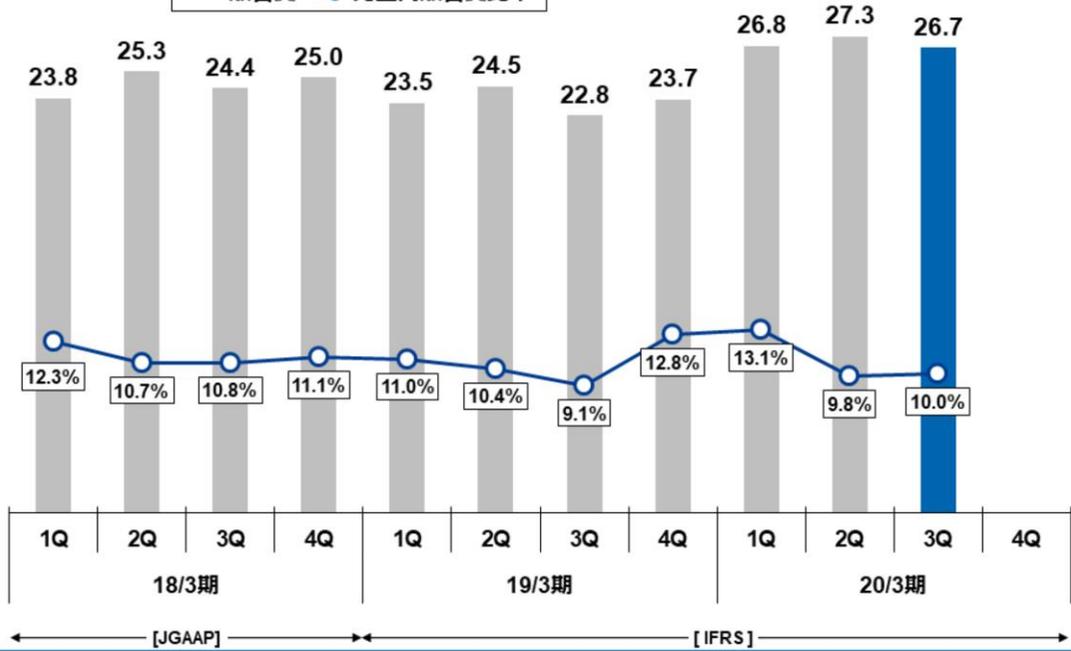
2020/2/5

28

MinebeaMitsumi  
 Passion to Create Value through Difference

(10億円)

■ 販管費    ● 売上高販管費比率



2020/2/5

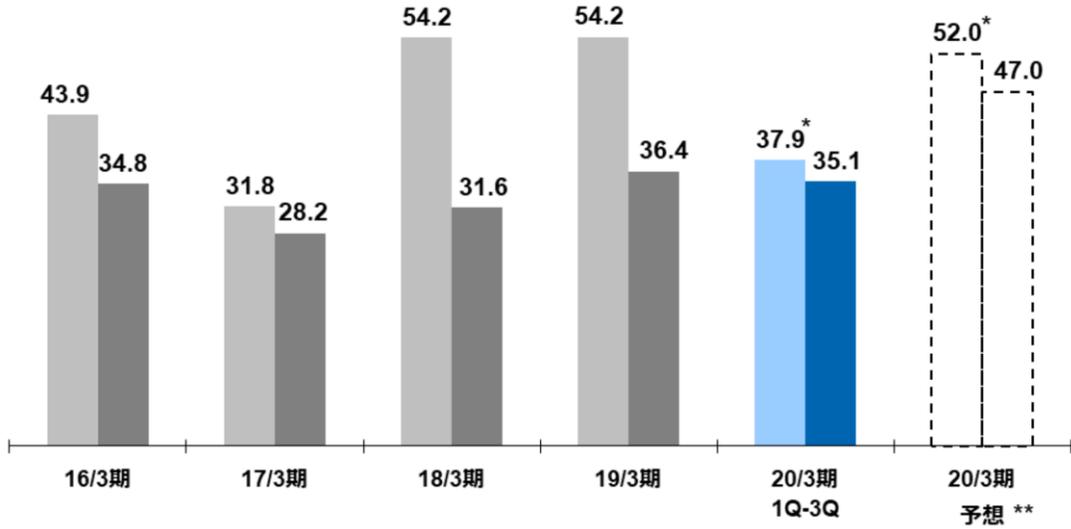
29

# 設備投資額・減価償却費

18/3期以前はJGAAP

(10億円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費



\* 設備投資額には、IFRS16号適用開始日に増加したリース資産は含まれておりません。  
 \*\* 20/3期予想にはユージンの設備投資89億円、減価償却費45億円を含む

← [JGAAP] → ← [IFRS] →

2020/2/5

30

**MinebeaMitsumi**  
 Passion to Create Value through Difference

# ROIC (投下資本利益率)

ユーシン事業は19/3以前は経営統合前の参考値でJGAAP、全社には含まない。その他のセグメントは18/3期以前はJGAAP

$$\text{ミネベアミツミ版 ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益 + 特別損益)} \times (1 - \text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形・売掛金 + 棚卸資産 + 固定資産 - 支払手形・買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産 (売上債権・債務、棚卸資産、固定資産) で算出

